

別紙様式

組織評価の改善状況報告書

平成26年3月31日

評価会議議長 殿

国際交流センター長
鈴木 滋彦

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成25年度の改善状況を報告します。

1-(1) 要改善事項
国際交流センターには大学執行部と意思疎通を図り、大学全体の指針における国際面での目標と方針について、できるだけ具体的で、タイムラインを意識した戦略を展開することが求められている。
1-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度から、国際交流センター長は副学長(国際戦略担当)となり、役員会に陪席、役員懇談会に出席し執行部との意思疎通を図る。国際交流センターが中心となって、静岡大学の国際化戦略を立案、提案する。
1-(3) 改善状況
国際交流センター長は、平成25年度より副学長(国際戦略担当)として、役員会に陪席、役員懇談会に出席している。また、国際交流センターが中心となって静岡大学の国際化戦略を提案した。その具体的施策として、執行部と一体となって、平成25年度国立大学改革強化推進補助金申請を進め採択を得た。
達成年度（予定を含む）
平成25年度

2-(1) 要改善事項
全学的な事務組織の中で、国際交流課の位置づけ・権限を明確にするとともに、浜松地区における事務支援体制として、人員の緊急の配置が必要である。
2-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
全学的な組織改革や静岡大学の国際戦略の検討に合わせて、国際交流課の役割・位置づけを明確にしていく。 併せて人員配置については、現在検討中の「浜松学生支援室」の中で浜松地区の事務組織の整備を進める。
2-(3) 改善状況

全学的な組織改革の中で、平成27年度に国際交流センター、グローバル改革推進機構が全学教育基盤機構に移行する予定であり、その検討の中で国際交流課の役割・位置づけの見直しを行っていく。

また、浜松学生支援室については、平成26年10月の発足に向け、「浜松学生支援室設置準備室」において検討を行っている。

達成年度（予定を含む）

平成27年度（浜松学生支援室については平成26年度）

3-(1) 要改善事項

留学生受入れ実績、今後の留学生増への対応、東西キャンパスのバランスなどを考慮し、浜松キャンパスの教員の増員が必要。

3-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

留学生受け入れならび日本人学生派遣増への対応のため、国際交流センターの強化が必要である。センターの本部機能と部局対応機能を精査し、浜松キャンパスの人員増を要求する。

3-(3) 改善状況

留学生受け入れならび日本人学生派遣増への対応のため、国際交流センターの強化を進めた。センターの本部機能と部局対応機能を精査し、浜松キャンパスの人員増を要求している。グローバル改革推進機構の設置に伴い、特任事務職員の配置を要求した。

達成年度（予定を含む）

平成27年度

4-(1) 要改善事項

これまで続けてきた「大学の国際化」を意識した活動が、より広範囲の連携を生むためには、学内外での情報発信力を強化する必要がある。また、競争的資金の獲得のために、引き続き学内の部局との緊密で広範囲な連携に努めるとともに、学外の連携先との協力体制の整備にも目を向けていく必要がある。

4-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

グローバル人材育成のための全学的な改革の中で、センターホームページの改訂を継続するとともに、H25年度末を目途に、海外研究留学生の受入れの柱となる「研究活動」情報について、学内部局と連携して部局・大学ホームページへの英語情報掲載について改善をはかる。学外の連携先として、自治体との協力体制をさらに強化する。

4-(3) 改善状況

グローバル人材育成のための全学的な改革の一環として、H26年2月（H25年度）に「インターアカデミア・アジア」という交流協定校研究者間の連携コミュニティの設立準備会議を、インドネシアやタイなど6か国12の協定校などから15名を招聘して実施し、情報共有とネットワークの促進を目的にホームページを開設した。

(<http://www.icsu.shizuoka.ac.jp/inter-academia-asia/index.html>)

静岡大学および国際交流センターのホームページ上にて、本学が開催する国際シンポジウムや海外機関等の往来訪を掲載し、研究・交流活動の発信強化に努めた。

学内部局や自治体との連携については、H25年度において「インターアカデミア・アジア」の開催、タイ同窓会（バンコク開催）への部局・自治体・県内企業関係者への参加依頼などを通じて、拡大することができたが、英語情報掲載の改善については、グローバル人材育成のための全学的な改革の一環として、平成26年度以降に取り組みを進めることとした。

達成年度（予定を含む）

平成26年度に、全学的なグローバル人材育成のための全学的な改革活動の動きに合わせて、学内外との連携体制と情報発信力の強化に取り組む。

5-(1) 要改善事項

国際交流センターとして基本的な機能を果たすための施設の整備が必要。

5-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

教室、会議室及び学生交流室（談話室）の整備を行う。

5-(3) 改善状況

グローバル改革推進機構の設置に伴い、国際交流センターの一部スペースを提供し機能を含めて整備した。さらに、同機構の機能充実のため、会議室および学生交流室の整備案を策定した。

達成年度（予定を含む）

平成30年度

6-(1) 要改善事項

海外への派遣日本人学生数の増加に向け、日本人学生のニーズにあったプログラムなどを開発する必要がある。

6-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

【学生交流部門】

グローバル人材育成のための全学的な改革の中で、各部局との連携のもと、協定校との研究室交流や海外インターンシップ等も含めた多様な派遣プログラムを実施する。

特に、平成25年度より、かねてから学生の要望が高かった英国・中国での4週間の短期語学研修を春期休業中に実施する準備を行う。

6-(3) 改善状況

平成25年度より、2月から3月にかけての4週間、イギリス・サセックス大学で、3月から3週間中国・北京華文学院でそれぞれ春期短期留学を実施した。また、人文社会科学部と連携し、他大学からも学生を募る形で平成26年度8月末から3週間、英国ケンブリッジ大学でサマーコースを実施する予定である。研究室交流や海外インターンシップについては、平成27年度から本格的にスタートするAsia Bridge Programに向けて、拡大するための準備を進めている。

達成年度（予定を含む）

平成28年度

7-(1) 要改善事項
ホームページについて、広報のツールとして、英語版の充実をはじめとした見直しを図る必要がある。また、本外部評価以外の学外からの評価や提案の受入れ方法についても検討すべき。
7-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年末までに、国際交流センターHP上の日英版の情報の更新頻度をあげるため、サイトをリニューアルし、協定校の留学プログラム等のコンテンツの充実を図る。更に関係団体からの提案を聞く機会を設けるなどにより、学内の学生及び教職員との情報共有力、学外への情報発信力を向上するための改訂を検討していく。
7-(3) 改善状況
<p>平成25年度は、改善計画に基づき、下記の改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際交流センターホームページ改訂（日本語、英語サイト） <ul style="list-style-type: none"> ・FAQページの設置による留学前の学生への情報提供 ・留学体験談ページの設置 ・News Updateページの設置（トップページに最新のニュースを配置） ・前ページにおける情報の更新・不必要な情報の削除 ○国際交流センターホームページと静岡大学の他のメディアとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤センター運営の静大TVに留学生、留学経験者のインタビューを掲載してもらい、その動画コンテンツへのリンクを国際交流センターホームページに配置 ○新サイトの設営 <p>国際交流センターの活動の情報発信力を高めるために、下記のサイトの新設をした。</p> <p>インターアカデミアアジア http://www.icsu.shizuoka.ac.jp/inter-academia-asia/index.html グローバル改革推進機構 http://www.icsu.shizuoka.ac.jp/global/index.html</p>
達成年度（予定を含む）
平成25年度末までにホームページに関する主な改善施策は実行済み。平成26年度以降に、学外からの評価や提案の受入れ方法に関する改善を進める。